



- 1.患者さんの権利と意思を尊重します。
- 2.地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
- 3.教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

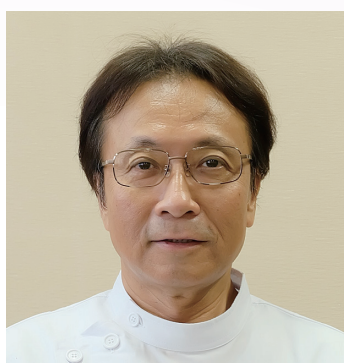
群馬県立がんセンターだより

第51号

発行：令和4年11月

発行元：群馬県立がんセンター

GUNMA PREFECTURAL CANCER CENTER NEWS



群馬県立がんセンター院長
鹿沼達哉

社会生活の平常化と病院機能の回帰

3年近くにわたり新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいました。社会の対応は皆さんが体験された通りです。日本は頑張ったと思いますが、病院の対応にも様々な工夫が必要でした。

県内での感染拡大に合わせ、当センターも入院治療を行ってまいりましたが、初期の頃には、通院や入院治療にいらしている“がん”という基礎疾患のある方に、絶対感染させてはいけないという危機感を持って対応しました。感染すれば重篤化すると恐れられていましたので、発熱や風邪症状のある方にはPCR検査、エアゾルの発生しやすい検査や手術治療前にもPCR検査が行われ、ご負担をお掛けしたのではないかと考えております。院内感染対策を徹底し職員にも感染予防を呼びかけ、来院者の導線を工夫し、専用病棟の改修も加えました。病院受診を自粛した方もおられ、1年目からオンライン診療も導入しました。がん検診の縮小は入院治療患者さんの減少となって現れました。できるだけ入院せずに治療を継続できるよう外来通院治療対応が増加しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

ウイルスの変異や予防接種の拡大により、次第に重症化リスクは減少しましたが、無症状でも感染を広げるというようにウイルスが変異し、感染の大波が押し寄せました。病院職員の中にも家族内感染等で自宅待機や宿泊施設隔離などを余儀なくされる方もおりました。院内感染防止対策のため、入院中の患者さんにPCR検査を実施させていただくことさえありました。

秋の訪れとともに発生数は減少し、コロナへの対応も整理され、社会的にはwithコロナで、社会経済活動の再興を図って行くのだと思います。ワクチンも進化し、ウイルスがさらに弱毒化し、社会生活が平常に戻って行くことが期待されます。患者さんに自由に語り合っていたく茶話会や患者さん向けセミナーを、病院内で開催することさえ困難でした。閉塞感も薄れてきましたし、県の警戒レベルも下がりました。がん診療連携拠点病院の新指針公表に合わせ、様々なイベントを復活させていく予定です。甚大災害に等しい感染症パンデミックでした。小さな波はまた来るかもしれませんが、一日も早く平穏が取り戻されるよう私たち医療者も努力して参ります。

部署
紹介

腫瘍内科 ～三年のあゆみと今後の展望～



がんゲノム医療に関するスタッフ（2022年4月撮影）

腫瘍内科は2019年4月1日に開設していただき、3年が経ちました。私は化学療法部長、通院治療センター長、そしてがんゲノム医療連携室長として腫瘍内科に所属しながら、それぞれの運営に携わらせていただいております。地域連携だより2020年8月号にて通院治療センターに関しての報告をさせていただいておりますので、今回はがんゲノム医療を中心にご紹介させていただきます。腫瘍内科にご紹介いただき

ました受診症例の概要を表1に、それらの症例の中で疾患名が変動したものを表2それぞれにまとめさせていただきました。表1の特徴としてはがんゲノム医療の症例が約3分の1を占めることです。また、表2の特徴としては診断名が画一化せず多くの癌腫にまたがり、診断名が変動し、中には原発不明がんとしてご紹介いただいても、その半数に確定診断がついております。図1では当科のみならず2017年からの原発不明がん診断の詳細となりますが、約半数以上に確定診断がついております。がんゲノム医療はドライバー遺伝子に基づく治療方針の決定のみならず、原発不明がんとして診断された症例の診断補助としてもお役に立ていただけます。施設の様々なご事情により診断が困難と思われる症例は、検査を継続する前に当院へご紹介頂けますと、がんゲノム医療を用いた適切な診療へと導くことが可能と思われます。原発不明がんは初診から1月以内に治療をすることがガイドラインで提示されておりますので、できるだけ早急にご相談頂けますと有用な場合が多いと思われます。ただし、寝たきりであり、自分の意志で物事を決められず、後期高齢者の場合は確定診断に持ち込めたとしても治療を適応することが困難でありますので、まずはセカンドオピニオンとしてご相談頂けますようお願い申し上げます。

化学療法部長 通院治療センター長 がんゲノム医療連携室長 荒木 和浩

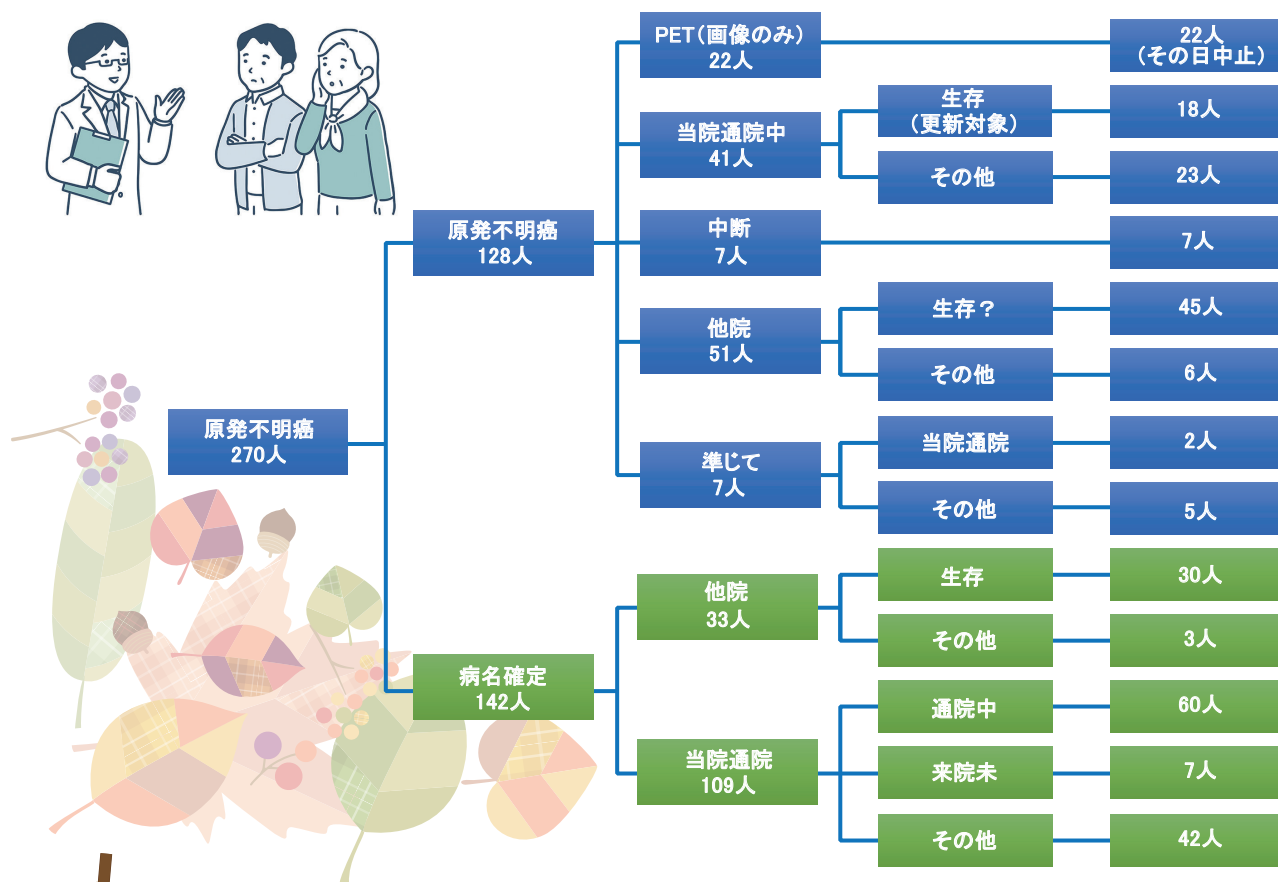
表1 腫瘍内科受診症例の概要

年齢中央値	66	(1～105)	歳
女性	114		人
男性	105		人
診療回数中央値	3	(1～156)	回
診療期間中央値	31	(1～1205)	日
がんゲノム遺伝子パネル検査			
予定者数	74		人
実施者数	63		人
未施行者数	11		人
化学療法施行者数	87		人
死亡者数	64		人
セカンドオピニオン	32		人
重複癌症例	15		人

表2 受診された症例の診断名の推移（初診時から最終診断まで）

疾患名	紹介時疾患名(患者数)	最終判断(患者数)	疾患名	紹介時疾患名(患者数)	最終判断(患者数)
原発不明癌	69	30	皮膚癌	4	4
悪性軟部腫瘍	37	39	食道・胃上部消化管癌	4	7
乳癌	28	32	小児癌	3	3
肝胆道系癌	18	20	呼吸器癌	2	7
膀胱癌	16	17	胚細胞腫瘍	2	2
頭頸部癌	12	15	腎・泌尿器癌	2	7
結腸直腸癌	7	9	血液腫瘍	2	2
婦人科癌	4	6	家族性腫瘍	1	1
神経内分泌癌	4	8	良性疾患(非悪性疾患)	0	6
神経内分泌腫瘍	4	4	合計	219	219

図1 2017年5月1日～2022年6月30日までに群馬県立がんセンターを原発不明癌の診断で紹介受診された症例の詳細な内訳



行事紹介 「ブラック・ジャックセミナー」をリモート開催しました!

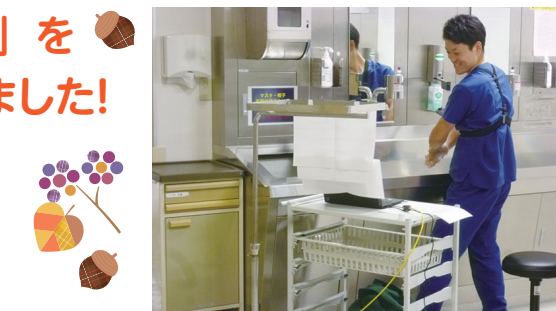
群馬県立がんセンターでは、2022年7月30日(土)に「ブラック・ジャックセミナー」を開催しました。「将来の医師等を育てる」ことを目的に、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社との共催、群馬県教育委員会からの後援で開催したもので、当院での開催は令和元年の初回開催以降、今年で3回目となりました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の観点からリモート開催となりましたが、小学5・6年生3名、中学生11名に参加頂きました。

セミナーでは、衛生学的手洗/手術時の清潔操作体験や手術縫合体験のほか、外科医をはじめとした当院の医師たちとの対談などを行い、参加頂いた皆様には、後日、修了証書が送られました。

セミナー後のアンケートでは、「医者という職業を身近に感じることができました。」「現場の先生の生の声を聴くことができるとてもいい経験になりました。」といった感想を頂き、満足度、理解度、医療への関心度等の項目においても100%に近い数値の回答結果となりました。

今回のセミナーに参加された皆様の中から、未来の医師が誕生することを心より願っております。



外来診療のご案内(外来担当医一覧表)

令和4年10月1日現在

区	分	月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器			保坂尚志	保坂尚志	保坂尚志 (午後新患)
		血液	村山佳予子 血液内科(午後新患)	入沢寛之 村田直哉	村山佳予子 血液内科(午後新患)	村山佳予子 村田直哉	入沢寛之 血液内科(午前新患)
		呼吸器	湊浩一 (午後/禁煙外来) 呼吸器内科 (午後新患)	増渕健		呼吸器内科 (午前新患) 午後/湊浩一	
	外科	消化器			尾嶋仁 榎田泰明 持田泰 高田考大 鈴木雅貴	尾嶋仁(新患) 榎田泰明 持田泰 高田考大 鈴木雅貴	尾嶋仁 榎田泰明 持田泰 高田考大 鈴木雅貴
		乳腺	柳田康弘 藤澤知巳 宮本健志 青木麻由	柳田康弘 藤澤知巳 宮本健志 青木麻由	乳腺科医師 (新患のみ)	乳腺科医師 (新患のみ)	柳田康弘 宮本健志 (遺伝)
		呼吸器			田嶋公平 尾林海 (午後新患)		田嶋公平 尾林海 (午後新患)
		形成	廣瀬太郎				廣瀬太郎
		骨軟部腫瘍			柳川天志 (午前のみ)	柳川天志	
		(リンパ浮腫)	リンパ治療・指導	リンパ治療・指導	リンパ診断		
	(ストーマ外来)			午前/ストーマ外来	午前/ストーマ外来	午前/ストーマ外来	
第二外来	婦人科	中村和人 山下宗一 木暮圭子 西村俊夫	中村和人 山下宗一 木暮圭子 西村俊夫	鹿沼達哉 (第3のみ)	中村和人	中村和人 山下宗一 木暮圭子 西村俊夫	
	歯科口腔外科	名生邦彦	名生邦彦	名生邦彦		名生邦彦	
	頭頸科	清水祐理 (午前/新患のみ)			清水祐理	清水祐理	
	麻酔科	麻酔科医師				麻酔科医師 (午前/術前診察)	
	泌尿器科	清水信明 蓮見勝 泌尿器科医師 (午後/新患のみ)	清水信明 村松和道 泌尿器科医師 (午後/新患のみ)		清水信明 蓮見勝 村松和道	清水信明 蓮見勝	
	精神腫瘍科			村上忠			
放射線科	放射線	北本佳住(新患) 村田真澄 岡崎祥平	北本佳住 村田真澄 岡崎祥平(新患)	北本佳住 村田真澄 岡崎祥平	北本佳住 村田真澄 岡崎祥平	北本佳住 村田真澄(新患) 岡崎祥平	
腫瘍内科	腫瘍内科		荒木和浩		荒木和浩		

※緩和ケア外来の受診を希望される方は「がん相談支援センター」へお問い合わせください。直通電話:0276-60-0679

診療予約 *初診、再診ともに予約制です。

●初診紹介予約制について

当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時の予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をおとりください。

●がん検診について

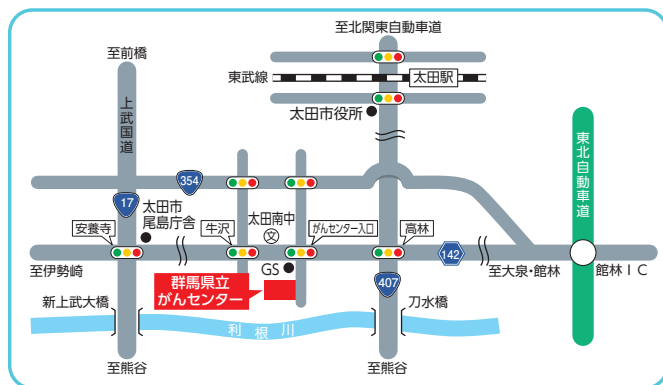
当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行ってあります。

予約専用電話 0276-38-0762

電話受付時間/平日:午前9時~午後5時
土曜日:午前9時~午後1時

※ただし、診療を希望される前日の午後1時までに連絡してください。

休診日/土・日曜日、祝日、年末年始



群馬県立がんセンター

〒373-8550 群馬県太田市高林西町617-1
TEL.0276-38-0771(代) FAX.0276-38-0614
URL <http://www.gunma-cc.jp>